

第5章 へき地・小規模校教育

へき地校、小規模校では、豊かな自然環境や心温かい地域の人々に支えられ、「地域に根ざした教育」「少人数を生かす教育」に焦点を当て、「地域に開かれ、地域に学ぶ教育」の実践や「一人一人の個性を生かし、伸長する教育」の実践が積極的に進められている。

これまでの研究・実践を基盤に、学校・家庭・地域との深い関わりの中で、児童生徒に「主体的に判断し、行動する実践力」「豊かな人間関係を築いていく心」「たくましく生きるための健やかな体」等の「生きる力」を育みたい。そして、児童生徒の地域を愛し、地域の発展を願う心や、地域社会に貢献する行動力を育成する。

1 へき地校、小規模校の特性を生かした学校・学級経営

(1) 家庭・地域社会との連携を深め、共に歩む教育をしよう

【生かしたい特性】

学校に対する家庭・地域の関心が高く、協力的であることから、家庭・地域と連携した教育を推進しやすい。

へき地校、小規模校に対する家庭・地域の関心は高く、各学校では家庭・地域と連携を図った教育活動が行われている。地域に根ざした活動を展開して児童生徒の豊かな心を育むためには、更に密接な連携を図り、学校と家庭・地域が協力してそれぞれの教育力を高めていくことが必要である。そのために、教員は家庭・地域の人々の願いを把握し、積極的に家庭・地域に働きかけて、地域と共に教育活動を推進し、学校への理解を深める活動を展開することが大切である。

また、児童生徒の様々な体験活動に地域講師による講話や実技指導を取り入れるなど、地域の人材を積極的に生かすことは、地域に根ざした教育活動を推進する上で大きな教育効果が期待できる。家庭・地域と連携し、共に歩むことのできる「開かれた学校」を目指していく。

(2) 地域の豊かな自然環境・伝統文化を教育活動に生かそう

【生かしたい特性】

豊かな自然環境・地域の伝統文化等を活用することで、多様な教育活動を創造できる。

へき地校、小規模校は、自然環境や伝統文化に恵まれた地域に立地していることが多いことから、以下のような地域の特性を生かした多様な教育活動を創造していくことが大切である。

- 児童生徒が地域の自然や伝統文化の中から学習課題を見付け、自ら課題を追究していく活動を設定し、地域を愛し、発展を願う心や地域に貢献しようとする行動力を養う。
- 「親子ふれあい活動」「お年寄りとの交流会」「地域講師を招いての学習活動」等、地域の人々と共に活動する場を設定し、地域の人々の願いを知るとともに、地域を愛する心や公共心を育てる。
- 地域の豊かな自然に触れ、地域の人々と共に「自然保護活動」に取り組むことで、地域の自然を愛し、守っていこうとする豊かな心情を育てる。
- 地域の伝統文化に携わる人々を招き、実演を見たり、実技指導を受けたりするなど、「地域の伝統文化の継承活動」を積極的に取り入れ、伝統文化に対する理解を深め、継承の気運を高める。

(3) 少人数を生かした実践を展開しよう

【生かしたい特性】

- ・ 個に応じた指導や支援をしやすい。
- ・ 教職員が一体となって教育活動に取り組みやすい。
- ・ 全校活動や異学年合同の活動、縦割り活動等の合同学習を組織しやすい。
- ・ 集合学習や交流学习等、学校の枠を越えた交流を図りやすい。

少人数を生かし、児童生徒一人一人の実態を十分把握したよりきめ細かな指導が可能である。個々の学習の記録や生活の記録等をもとに、児童生徒の情報を教職員間で共通理解する時と場を設定し、教職員が様々な視点から児童生徒を捉えることが必要である。

一方、少人数であっても、一人一人が言葉できちんと伝えられるよう、発問の工夫や学習のルールづくりを含めた教員による支援を工夫する必要がある。また、集合学習や交流学习等においては、複数校の児童生徒と一緒に学ぶことを通して、自主性や社会性を伸ばし、温かく豊かな人間関係を築いていく場を意図的に設定することが大切である。

2 へき地校、小規模校、複式学級を有する学校の創意を生かした指導計画

(1) 一人一人を見つめた指導計画を作成し実践しよう

児童生徒一人一人を伸ばすためには、地域や学校の特色を生かすとともに、学習指導の充実を図る必要がある。そのためには、一人一人を見つめた指導計画を作成することが大切である。

指導計画の作成に当たっては、上・下学年の学年差や個人差を十分考慮し、少人数を生かして、児童生徒一人一人の個性や能力に応じた指導計画を作成する。また、豊かな自然環境や伝統文化を生かした体験的な学習を積極的に取り入れることも考慮する必要がある。特に、複式学級を有する学校では、各教科等の特性を踏まえ、「繰り返し一本案」や「A B年度二本案」のように指導計画を工夫することが大切である。

なお、数年先までの児童生徒数を的確に把握し、複式学級・単式学級の指導計画を作成する必要がある。また、次年度に複式準備学年になっている学年や初めて複式学級を有する学校については、次年度使用教科用図書需要数にも留意する。

【複式学級における指導計画の類型（例）】

「繰り返し一本案」・・・上・下両学年の内容を1年間で学習できるように教材を精選して構成し、2年間繰り返す（同単元同内容異程度）。

「A B年度二本案」・・・上・下両学年の内容を2年間に平均して配分し、同時に同じ内容・同じ目標で指導する（同単元同内容同程度）。

(2) 学級や学校の枠を越えた学習の場を設定しよう

極小規模化が進んでいる学校では、社会性の伸長が実現しにくい傾向がある。この点を克服するために、複数の学級や学校間における合同学習・集合学習・交流学习で積極的に交流を進め、相互に連携を深めながら、より広い視野に立った教育活動を展開していく必要がある。こうした工夫により、児童生徒が大きな集団の中で自己を見つめ直し、温かな人間関係を築いていく力を伸ばしていきたい。例えば、集合学習で、同じテーマについて調べた結果を発表し合ったり、学習姿勢や学習状況について学び合ったりすることも効果的である。

このような活動においては、事前に担当者が指導計画を検討し、学習のねらいや内容に応じた学習形態を工夫することが大切である。

(3) その学校、その地域ならではの特色を積極的に生かそう

へき地校、小規模校では、地域の自然環境や伝統文化を、その学校にしかない特色として指導計画に積極的に位置付け、児童生徒の自立心や社会性の育成に効果をあげている。地域のニーズに応え、児童生徒の将来を見据えた特色ある指導計画の作成に努めたい。

3 少人数を意識した学習活動

(1) 自ら学習する態度を育てよう

少人数の学級では、一人一人の知識や技能、興味・関心、考え方、体験、学習のスタイル等の違いを捉えやすく、個に応じた指導もしやすい。また、複式学級では、児童生徒が自力で課題に取り組む場面も多い。こうした状況から、児童生徒が主体的に課題を見付け、解決することを通して、学ぶ喜びや楽しさを味わい、追究力を高める指導や支援を心がけることが大切である。さらに、小学校の複式学級での間接指導の場面で、児童がガイド役となる「ガイド学習」等の方法により、児童同士で学ぶことができるようにする取組にも着目したい。

少人数の学級での学習が主体的に進められるようにするためには、児童生徒の実態にどのような違い（体験の違い、知識や技能の違い、興味・関心の違い、考え方の違い、学習スタイルや速度の違い等）があるかを把握し、個に応じた支援の在り方について研究を進めていくことが必要である。

(2) 関わりを仕組み、個が生きる学習にしよう

児童生徒一人一人の追究力を高め、生かしていくには、様々な関わりの中で自分の考えを見直したり、追究の意欲を高めたりする場を設定することが効果的である。そこで、「人・もの・こと」との関わりに着眼した学習を進める。例えば、集合学習や交流学习等で「人」と、地域の素材や伝統文化等の学習で「もの・こと」と関わる場を意図的に設定して、学びの価値を自覚できるようにしたい。

さらに、児童生徒が自身の成長を自覚するために、学習の振り返りの場を位置付ける。成長の自覚が自信につながり学習意欲が高まるとともに、表現力を養うこともできる。

4 へき地校、小規模校、連携型中高一貫教育校における特色ある教育活動

【へき地校における特色ある教育活動例】

- ・ 「ふるさと学習」 地域の自然や史跡を題材にした「かるた」「ふるさとマップ」「ふるさと昔話本」等の作成を行い、地域の文化・風土を大切にしようとする心を育む。
- ・ 「ICTの活用」 ウェブ会議ソフトを利用し、史跡や自然の紹介や調べ学習の発表を他校に向けて行うなど、離れた場所でも交流学习に取り組む。

【小規模校における特色ある教育活動例】

- ・ 「異学年交流」 全校給食や清掃活動等、学校生活の様々な場面において実施する。高学年が低学年の様子を優しく見守ることで、まるで家族のような一体感が生まれている。
- ・ 「保小中連携健康教育」 夏休み期間のラジオ体操、月に一度のノーメディアデーの実施等、地域全体で健康推進に取り組む。

【連携型中高一貫教育活動例】

- ・ 「交流授業」 高校教員が中学校でチーム・ティーチングを行うことで、専門的な知識に触れ、進路選択に向けた意識が高まる。また、連携校へ目標をもち、主体的に進学することができる。
- ・ 「大地のめぐみプロジェクト」 中学生が高校での農業体験学習等を通じて、農業高校の特色を知るとともに、農業に対する興味・関心を高めるなど、地域に根ざした生きる力を育む。

【地域の素材を生かした活動】

- (メリット)・ 豊かな自然や伝統ある文化との触れ合い
 ・ 児童生徒の学習意欲の高揚
 ・ 特色ある学校 ・ 学級づくり
- (ポイント)「人・もの・こと」等の情報の集積と積極的活用

【地域の人材を生かす活動例】

- ・ 「地域の先生」に学ぶ
- ・ 地域の人の取組に学ぶ
- ・ 地域の人と関わりながら学ぶ
- ・ 地域を訪れる人に学ぶ

「ふるさと 出会いの創造」に向けた実践

へき地の児童生徒の課題である「新たな人・もの・こととの出会いが少ないこと」を克服し、ふるさとを愛する心と態度を育むために、地域や県内の教育資源（人・もの・こと）を生かして「学びの場」「交流の場」「体験の場」を設定し、地域の実情に合わせた学習活動・体験活動を充実させていく。

【学びの場】

主な活動

- ・ 音楽科や保健体育科等における合同学習や集合学習
- ・ 総合的な学習の時間等におけるICTを活用した遠隔地の学校との交流
- ・ 地域素材を生かした学習
- ・ 文化・芸術鑑賞

【交流の場】

主な活動

- ・ 都市部の児童生徒との交流
- ・ へき地・小規模校の児童生徒との交流
- ・ へき地間のネットワークづくり
- ・ 地域の人々との交流

【体験の場】

主な活動

- ・ 都市体験学習
- ・ 都市分散研修
- ・ 伝統文化の体験
- ・ 伝統文化の保存・伝承
- ・ 自然保護活動

5 へき地で学び、へき地から発信する

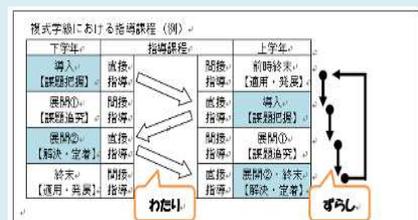
へき地の児童生徒が、身の回りの「人・もの・こと」から学んだことは、児童生徒自身の生活の一部として定着し、生涯にわたって生きて働く力となる。また、地域素材や人材を生かした学習、一人一人を生かす学習等の実践は、児童生徒の「生きる力」を育むために多くの学校が取り入れようとしているものばかりである。へき地教育の取組やその成果を積極的に発信したい。

6 教員の力量を高める研修

へき地教育は、へき地の学校・教員の主体的な研修と取組に支えられている。それは、児童生徒一人一人の個性を捉え、個の思考を広げ、深めることが基本となっており、その指導技術は人数の多少に関わらず全ての学級での指導に生かされるべきものである。しかし、へき地教育や複式教育に携わった経験のある教員の減少という問題もある。教員の力量を一層高めるために、下記の研修に努めたい。

- 児童生徒一人一人の個性を生かす指導計画・指導方法・評価（地域の素材・人材を生かした総合的な学習の時間等の実践、支援の個別化）の在り方
- 複式学級での指導、単式学級でも生かせる工夫や研修の機会の確保と、学習活動を無理なく効果率的に行うための指導の工夫

- ※ 複式学級における算数（2学年同時の学年別指導）の指導法
 「ずらし」上学年と下学年の直接指導の課程が重ならないように指導課程をずらして組み合わせること
 「わたり」教育課程をずらすことによって教員が上学年と下学年の間を移動して直接指導すること



【「ずらし」と「わたり」】

- ICT活用の指導技術の向上
- 少人数・複式学級の特性を生かした学習形態（合同学習、集合学習、交流学习）の在り方
- 地域との連携を深め、地域と共に歩む教育活動（自然環境や伝統文化を取り入れた活動、地域の人材を生かした活動）の創造